



中学校（課外学習）におけるMM教育

素敵な駅をつくる産学協同

叡電「八幡前駅プロジェクト」

同志社中学校 職員 古城 郷

目次

- 01** 大学・社会人へとつながる学びを
- 02** 産学協同「八幡前駅プロジェクト」とは
- 03** 「新しい活動の居所」が、継続12年に
- 04** 新しい学びの感触と果実（四方良し）
- 05** 運営の工夫、そして課題

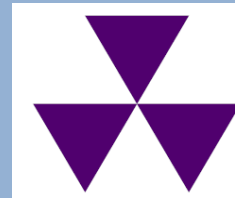


大学・社会人へとつながる
学びを



1875-2025 ANNIVERSARY

The Doshisha



同志社中学校

創立者：新島 襄

キリスト教主義教育

自由・自治・自立

「教科センター方式」

大学への一貫教育





同志社中学校 × 叡山電車
産学協同 「八幡前駅プロジェクト」
とは

企業訪問・職業講話・共同商品開発など、
産学連携の可能性を把握するため
保護者および卒業生にアンケートを実施



地域を共にする企業

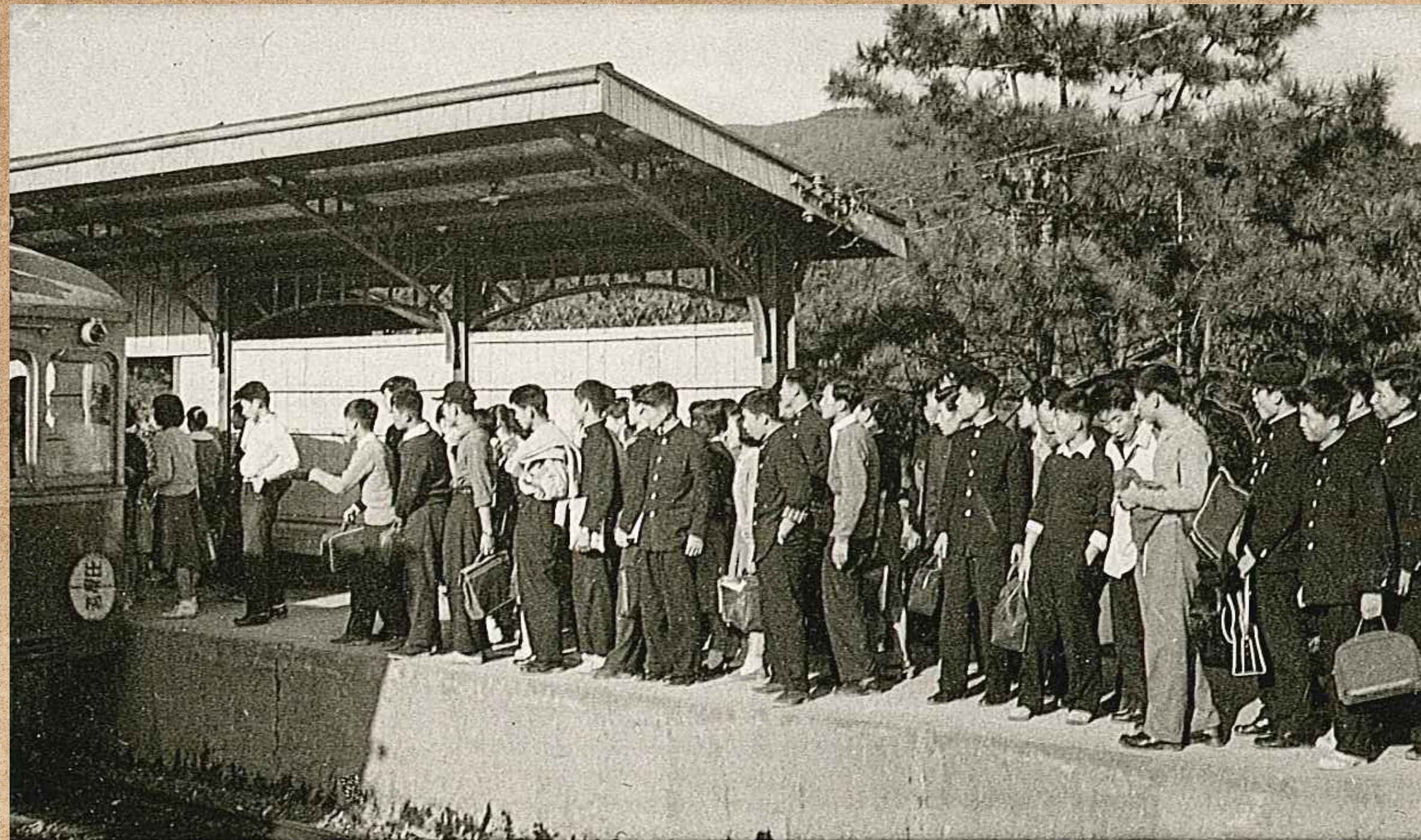


叡山電鉄株式会社

学校最寄駅の一つである
叡電「八幡前駅」を
同志社の生徒の力で
何とかしてみませんか？！



1960



2013



八幡前駅と同志社は、長い間、地域のシンボルとして互いに支え合ってきたが、1997年に市営地下鉄が延伸し、国際会館駅が登場してからは、地下鉄利用者が増え続け八幡前駅を通学で利用する本校生徒は、今や中学・高校全体の1割ほどにまで減少。また、周辺地域の住民も少子高齢化が進み、総じて八幡前駅からは活気が失われていた。

02

産学協同「八幡前駅プロジェクト」とは

町の人にとっても、同志社にとっても、
八幡前駅が大切な場所であることは変わらない
からこそ、自分たちでこの駅を
もう一度「素敵な駅」にしよう。

PBLやアントレプレナーシップ教育の観点からも絶好のテーマ！

2013年、校内ポスター掲示を見て集まったのは有志10名！

八幡前駅プロジェクトのあゆみ



1928 年 八幡前駅 開業

2013 年

八幡前駅プロジェクト発足
駅の手すり塗り替え
壁新聞の発行
クリスマス装飾で駅をデコレーション

2014 年

同志社コーナーの誕生！

駅舎全体の塗装リニューアルが実現
クリスマスに駅をデコレーション
クリスマスイラストでツリー装飾
「わがまちの電車」叡山電車の写真展

2015 年

クリスマスに駅をデコレーション
八幡前駅マスコットキャラクター「ハト駅長」誕生
「ハト駅長」木彫り&紹介パネルの設置
チャペルの椅子・旧高校礼拝堂の長椅子を
駅ホームに設置、除幕式も実施



【テーマ】八幡前駅を「恋のパワースポット」にしよう！
 初電初！
 クリスマス駅デコレーション
 クリスマスツリーに願い事を書こう企画
 電車がホームに入ったらBGMが流れるシステム導入
 サンタクロースイベント
 新年の抱負を書こう企画
 みんなの恋バナ大募集企画
 駅の手すり全面塗り替え
 ハト駅長の「こいくるパン」商品開発



2016 年



2017 年

2018 年

【テーマ】ココアツ
 待合室設置の提案
 クリスマスイベント
 ハロウィンイベント
 お正月イベント
 ココアツデー駅で春を見つける日の実施

2019 年

子供食堂への募金
 台風21号復興募金
 同中マークを探せ！企画
 HP 制作





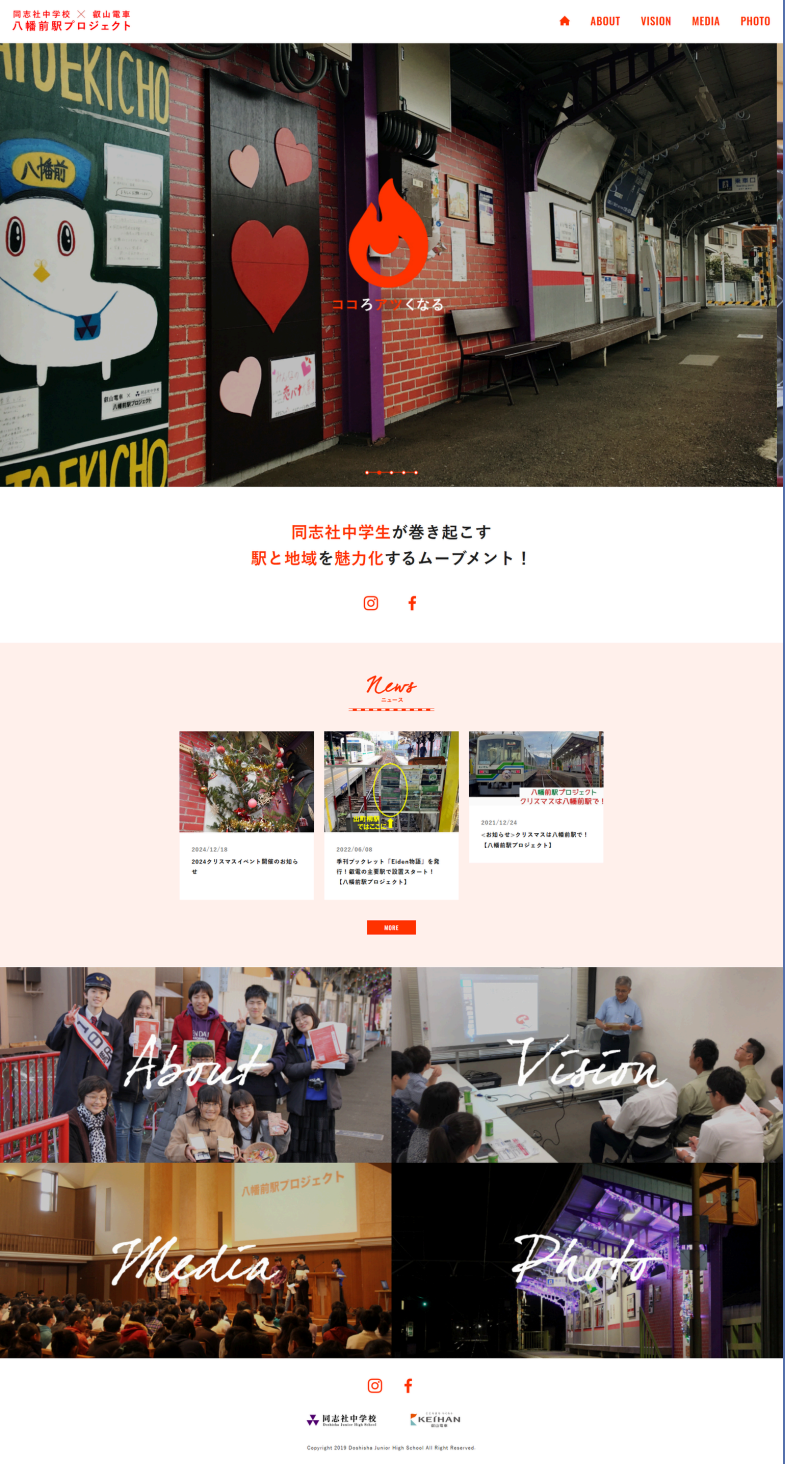
地元のパン屋さんと
商品開発した
「こいくるパン」



人の手が感じられる駅
いつも、何かの活動が
滲み出ている駅に！



ハト駅長



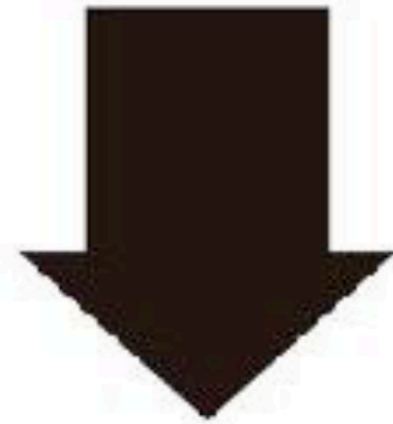
八幡前プロジェクトメンバーが感じるやりがい

自分たちの考えたことがカタチになる喜び！

地域の人々の笑顔が見たい！！

地域の人からの感想が返ってくる！

八幡前プロジェクトが活動する



地域の人自身が魅力を伝えたい！

イベントをやってみたい！と活動

プロジェクトの最終目的

叡電「八幡前」駅を
“地域交流”を生む
持続可能な駅にする
(活性化・魅力化)



エコモ財団様より
モビリティ・マネジメント教育支援制度を受ける
(2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022, 2023)

人や社会、
環境に“やさしい”

指針・資金・公共性、この3つが与えられた



テーマがあることで
思考と行動を
選択する際に、
指針が明確になる



資金をもとに、
専門家を招いたり
アイデアの実行が
より充実した



自分たちの活動が
公なものとして
認められ、応援され
ていると感じる
公共性



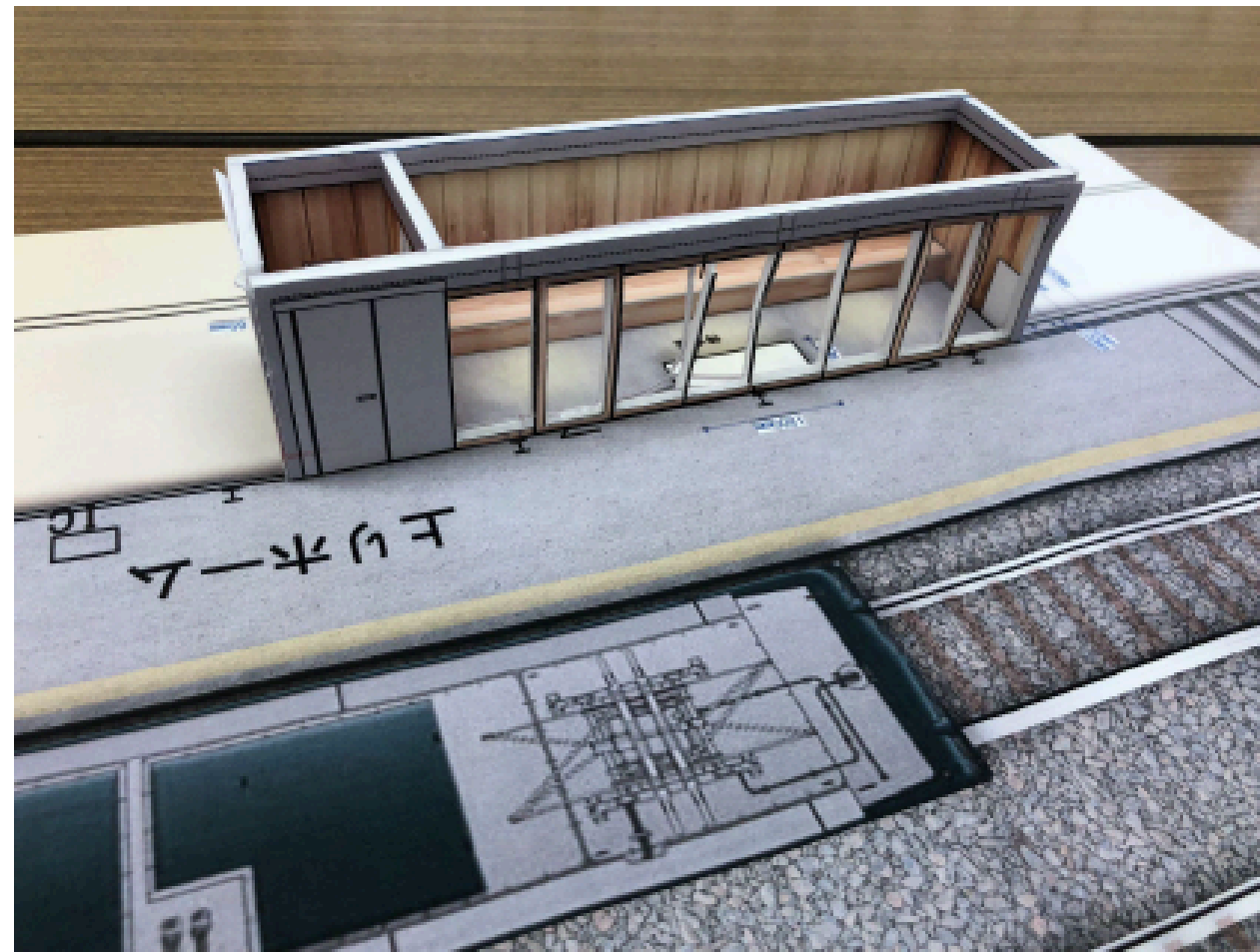
**2020年7月
大雨による土砂災害で
大規模な崩落が発生**



**叡山電車の
市原駅～鞍馬駅間が運休
大変な復旧作業へ**

2021年9月に再開通

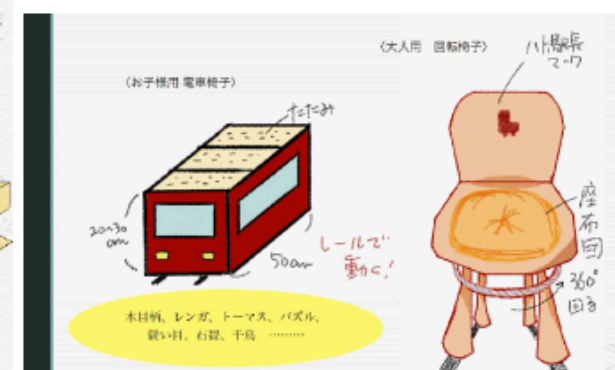
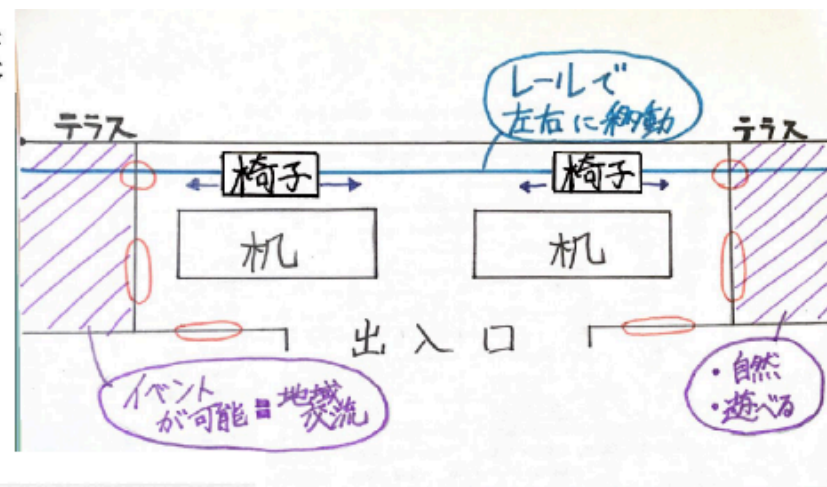
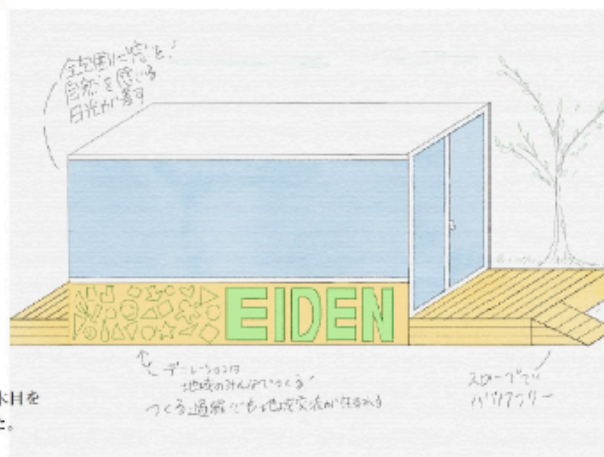
2019-2020



待合室の具体案

- ・待合室の大きさ
- ・イスの配置
- ・テラスを作る
- ・テーブルを設置する

外のイメージ



<リタ>

1500円 (60人)

- ・同中×エイテン文房具セット
- ・内容未確定

3000円 (50人+10人+10人)

- ・同中×エイテン文房具セット
- ・待合室づくりに参加! ☆
- ・かハトはるプレートづくり ♡

5000円 (30人)

- ・同中×エイテン文房具セット
- ・待合室づくりに参加!
- ・かハトはるプレートづくり
- ・1日乗車券(エイテン)本線or馬場線

10000円 (30人+10+10+10)

- ・エイテン列車ひきのまはる
- ・待合室づくりに参加!
- ・かハトはるプレートづくり
- ・<鉄ちゃんコース> 本線or馬場線
- ・1日乗車券+ガイドブック+車庫に入る!
- ・<同中コース> 学びのまちの参加者 (3つのまちから1つ選ぶ!)

3000円 (15人)

- ・エイテン列車ひきのまはる
- ・待合室づくりに参加!
- ・かハトはるプレートづくり
- ・<鉄ちゃんコース> +車庫に入る!
- ・1日乗車券+エイテンツアー! (カイトアワ)
- ・<同中コース> 本線or馬場線
- ・1日同中生体験! (学びのまち参加、授業見学)
- ・スーパーマチのまち...

2021



2022



同志社中学校の
八幡前プロジェクトから生まれた!
叡電公認
「叡電で遊ぼう! アプリ」

アプリの内容



- ・ 八幡前駅プロジェクトや
叡電についての紹介
- ・ 叡電に関するゲーム
- ・ 叡電のクイズ
- ・ 叡電のリンク情報

叡電について
楽しみながら知ろう!

2022

News Release



同志社中学校
Doshisha Junior High School



KEIHAN
叡山電車

報道関係者各位

2022年7月27日

素敵な駅をつくる産学協同「八幡前駅プロジェクト」 パンを買って、森林保全！ コロナ以前にオリジナル開発したパンを 出町柳駅で数量限定・特別販売(&募金活動)

日時 2022年7月31日(日)

10:00～12:30 売切れ次第終了

場所 叡山電車 出町柳駅 改札横

2020年7月の豪雨による土砂崩れで叡電鞍馬線が被災。沿線の森林の保全の重要性を知り、二度と同じような被害が出ないで欲しいという思いから、この企画は始まりました。出町柳駅でパンを販売し、利益の一部と、募金を京都市森林組合さんに寄付(後日)します。

「こいくるパン」とは、コロナ以前に、同志社生約1,000人を対象にアンケートリサーチして企画した味を、岩倉・八幡前地域コラボ(叡電×プレーメン×同志社中)で開発・販売した商品で、コロナで販売が止まっていたパンです。こいくるパン(50コ限定)の他にも岩倉にあるBremenから、3種類のパンを販売する予定です。※販売・受け渡しはプレーメンstaffが行い、個包装、こまめな消毒など感染症対策を実施します。

「八幡前駅プロジェクト」は、同志社中学校の有志メンバー約20名と、叡山電鉄株式会社とのプロジェクトチームによる産学協同！現在で、9年継続・12期目を迎えています。

この産学協同の目的は、「叡電「八幡前」駅を“地域交流”を生む持続可能な駅にする」です。現在のメンバーでの活動コンセプトは、『ココアツ』で、八幡前駅を舞台に、「ココロがアツくなる・あたたかくなる」そして、「ココに集まる・ココで集める」という願いを込めて、八幡前駅や地域を盛り上げていく企画を実施していきます。この産学協同の取り組みにぜひご注目ください。

同志社中
八幡前駅
プロジェクト
WEB



【本件および取材・報道に関するお問合せ】

同志社中学校 校務センター(担当:古城 090-9042-8921)

TEL:075-781-7253 MAIL:a-kojyo@js.doshisha.ac.jp

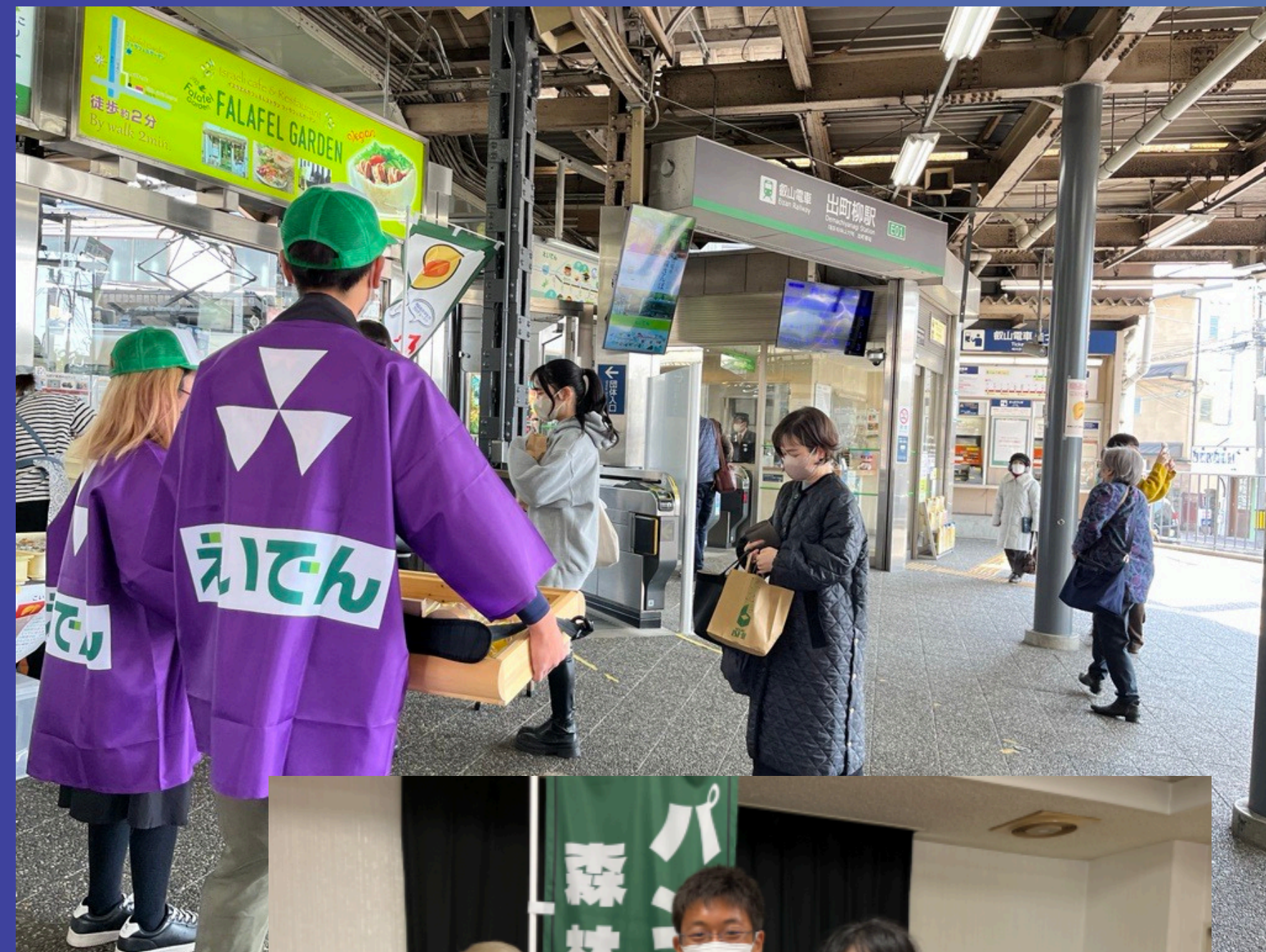
叡山電鉄株式会社 総務部

TEL:075-702-8110



←当企画担当
田中さん(中3)

京都市森林
組合より提供
の北山杉を
使用した
立売箱を
自作!



2022



News Release



同志社中学校
Doshisha Junior High School



こころまち つくろう
KEIHAN
叡山電車

報道関係者各位

2022年12月14日

素敵な駅をつくる産学協同「八幡前駅プロジェクト」 2022クリスマスに「**コドモココアツツケ**」な駅を！ 駅ホームにホンモノの「もみの木」登場！ 親子メッセージぬりえ募集＆生歌冬ライブ♪開催！

場所 叡山電車 鞍馬線 「八幡前」駅ホーム

▼駅ホームに「もみの木」ツリー設置

※京都市森林組合さまより提供

日時 2022年12月15日(木)



「八幡前駅プロジェクト」は、同志社中学校の有志メンバー約20名と、叡山電鉄株式会社とのプロジェクトチームによる産学協同！現在で、9年継続・12期目を迎えています。

この産学協同の目的は、「叡電「八幡前」駅を“地域交流”を生む持続可能な駅にする」です。現在のメンバーでの活動コンセプトは、『ココアツツケ』で、八幡前駅を舞台に、「ココロがアツくなる・あたたかくなる」そして、「ココに集まる・ココで集める」という願いを込めて、八幡前駅や地域を盛り上げていく企画を実施していきます。この産学協同の取り組みにぜひご注目ください。

- 9:15 京都市森林組合さまにて「もみの木」引き取り～駅へ搬送
- 9:40 八幡前駅にて設置作業開始（叡山電車+同志社中メンバー）
- 10:30 ツリーの装飾仕上げ作業（電飾+オーナメント類）*中学生メイン
- 12:00 作業終了予定



▼駅舎全体のLED電飾イルミネーション点灯実施中！
(15:00～23:00)

▼親子メッセージぬりえ募集～展示
生歌冬ライブ♪開催@八幡前駅ホーム
日時 2022年12月22日(木)
15:00～17:00

「岩倉こひつじ保育園」との地域コラボや、駅利用者のみなさんから「ぬりえメッセージ」を募集し、駅に展示します☆また、子どもから高齢者まで楽しめる歌(新旧アニメソング&クリスマスソング)を用意して、中学生が歌います！世代を超えて、「コドモココロが熱く続く」クリスマスを演出します。

同志社中
八幡前駅
プロジェクト
WEB



【本件および取材・報道に関するお問合せ】

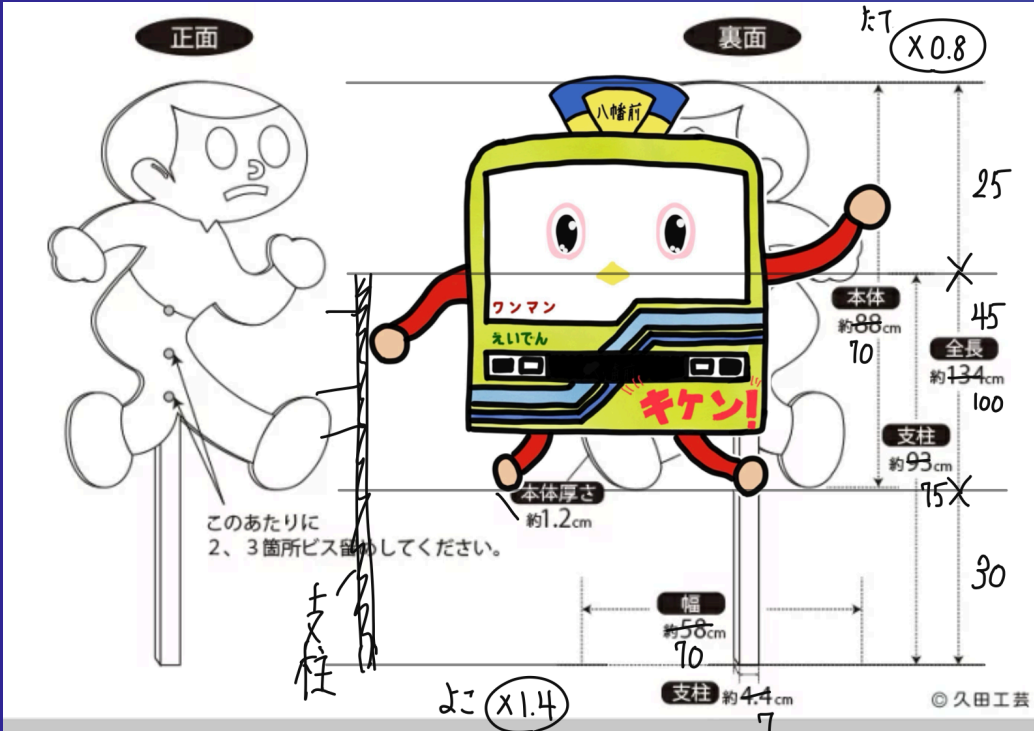
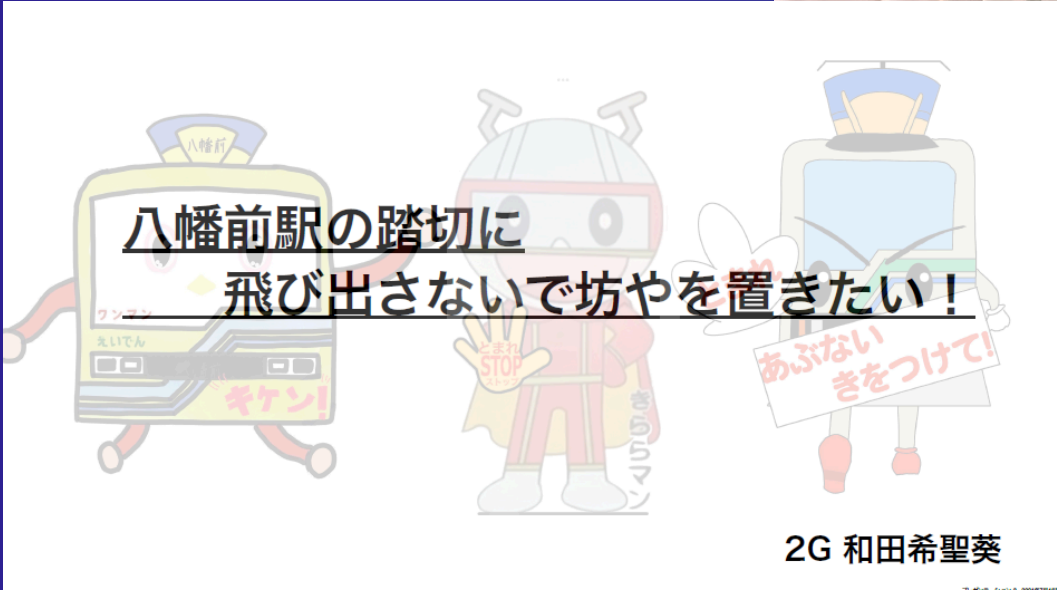
同志社中学校 入試広報室(担当:古城 090-9042-8921)

TEL:075-781-7253 MAIL:chugaku@js.doshisha.ac.jp

叡山電鉄株式会社 総務部

TEL:075-702-8110

2024



2024



同志社中の生徒たちが、駅利用者や近くの園児たちが踏切を安全に渡ってもらおうと思い作った看板(京都市左京区・八幡前駅)

踏切横断前「とまれ」看板

叡電八幡前駅
同志社中と協力



駅利用者の安全を呼びかけようと、京都市左京区の叡山電鉄八幡前駅近くの踏切で一時停止を促す「飛び出さないで坊や」看板を設置した。叡電の車両を模したキャラクターが「とまれ」を呼びかけている。

駅周辺の魅力を向上させようと、叡電と同志社中(同区)が11年前から続けている産学連携プロジェクトの一

環。駅周辺は近くの保育園の散歩コースで、園児たちが安全に踏切を渡るようにと、生徒たちが看板作りを企画した。

看板は2種類の叡電車両を基にしたキャラクターと「きららマン」の計3台を作成。学校の机を再利用し、園児と同じ目線の高さ約90センチに仕上げた。

製作に携わった2年の和田希聖葵さん(14)は「看板を見てもいい、楽しい気持ちで踏切を渡ってほしい」と話していた。

(能美孝啓)



毎冬には、駅クリスマス



地域の皆さんは、
毎年楽しみにされています。

**「新しい活動の居所」が、
継続12年に**

03

『私にとっては必要で大事な経験でした。普通に中学生をしているだけじゃ絶対できないようなことのオンパレードだし、大変なこともあるけど何より楽しい！あとは、こういう課外活動に興味を持っている「やる気のある仲間」と出会えるから絶対やったほうがいい！そういう友達がいると、刺激をもらえます！』（2018卒 MFさん）

『やってみようと踏み出した一步が中学3年間のすべてを変えてくれた気がします。好奇心を大切にしていこうと思えたり、自分が好きなことはアイデアを出したりポスターを作ったりすることなんだとも気づいたし、悔しさを味わうことの大切さにも気づけました。この3年間の活動で出会った人たちとのつながりも、はじめとは比べられないくらい自分のものにできた気がしています。』（2018卒 FHさん）

正課の授業（教科）



修めるべき学びとしてカリキュラムで決められているもの

担当教員により評価が行われるもの

放課後の部活動



同じコトが好きなものの同士が集まる

単純明快なゴール
（試合やコンクールでの勝利・技術の練達）に向かって取り組むもの

これまでになかった
「新しい活動の居所」
「新しい活動チャンネル」
を見出した？！
（与えられた）

① 課題のありかた

学校の外にあるヒト・モノ
・コトが与えてくれる
現実社会の答えのない課題

② メンバー

興味・関心を持ち、
「やってみたい！」
「ワクワクに挑戦したい！」
と集まった異質なメンバー

「新しい活動の居所」 「新しい活動チャンネル」

③ やらされゼロ

絶対にやらないといけな
いことなく、自分たちで
「やる」と決めること

④ 評価が社会から

学校のなかでの評価でなく、
成功も失敗も、学校の外部
からの評価が得られる

「新しい活動の居所」が、継続12年に

Q

前述のアンケートコメントにみられるように、このような新しい経験・居場所を得た子どもたちが、一様に「前向きさ」「自信」「挑戦を楽しむマインド」を身に纏っているように感じすにいけない。これはいったい何からくるものなのだろうか？



(出典：OECD Learning Compass 2030 Concept Note, 2019)

「生き延びる力／変革を起こす力
(transformative competencies)」

2030/2040の時代にむけて
育成が重要な
3つのチカラが提言された

「新たな価値を創造する力
(creating new value)」

「対立やジレンマに対処する力
(reconciling tensions and
dilemmas)」

「責任ある行動をとる力
(taking responsibility)」

「新たな価値を創造する力
(creating new value)」

新しい製品やサービス、新しい社会モデルを他者と協力して産み出す力。適応性、創造性、好奇心、他者をオープンに受け入れる心。

「対立やジレンマに対処する力
(reconciling tensions and dilemmas)」

平等と自由、自立性と地域利益、変革と継続性など様々な競合する需要間のバランスをとる力。折り合いをつける力。

「責任ある行動をとる力
(taking responsibility)」

自らの行動の将来の結末を考慮する力。自分の仕事の成果について責任をもって説明できる力。自ら評価できる力。自己効力感、責任感、問題解決能力、適応能力など

これらは学び手・教え手に共通して重要な能力であり、
「見通し・行動・省察」というプロセスを通じて学習できるとしている

未来予測やそれにむけて国際的に
提唱されている“これからの学びの
あり方”を確認してビックリ！



次の3つの点で、見事なほどに
【八幡前駅プロジェクト】の
設定や実態にじっくりきました。

01

新しい価値創造

八幡前駅・地域

人口減少・高齢化
産業衰退・活力低下

複数課題を同時に
抱える未来の縮図

地域住民や駅利用者へのアンケートや聞き込み調査

『利便性では市営地下鉄や路線バスには勝てない』という現実

しかし、地域交流拠点の創出や活性化への期待は大きいことがわかった

駅を、
地域交流の場
そのものにする！
という
新しい価値創造

“地域交流を生む駅”としての魅力化を図るチャレンジへ！

02

さまざまな立場の人と
折り合いをつける

スロープを
設置したい

マルシェを
したい

資金繰り



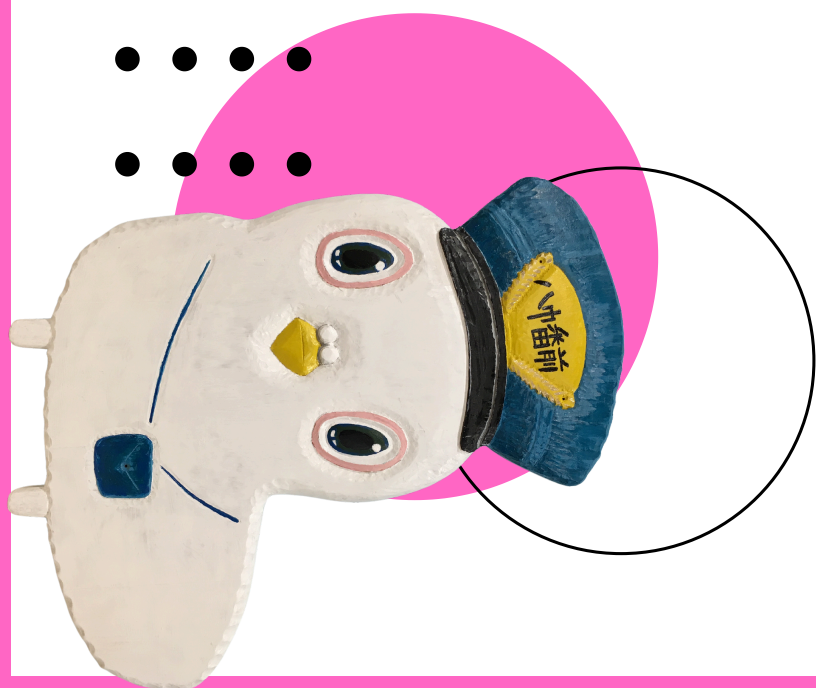
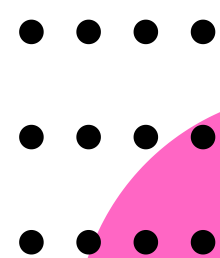
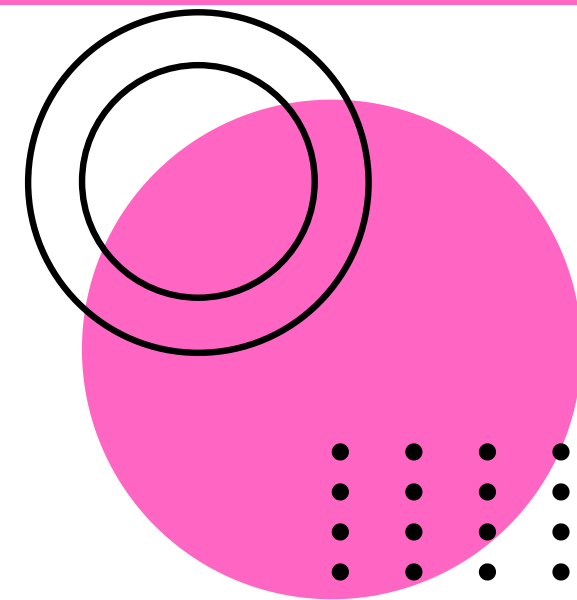
あらゆるステークホルダーを意識し
て、複眼的な視座をもってアイディア
を出すことが求められている

意見調整



グラウンドルール1

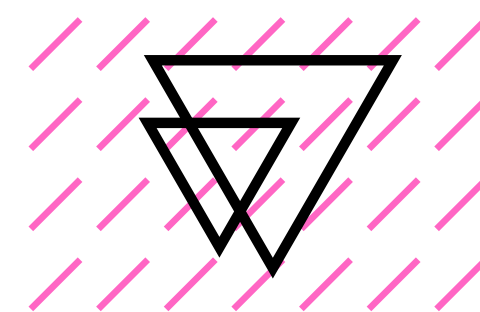
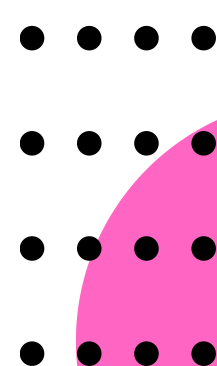
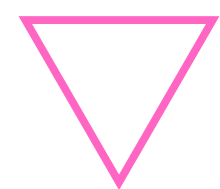
**みんなの発想を
信じて、尊重する**



グラントルール2



みんなが率先して
動かない限り、
大人は手伝わない



03

オトナを動かすため
自らの言葉で
アイディアや想いを
説明しなければいけない

生徒主体でのプロジェクト運転
関わるオトナは伴走者に徹する

自分たちが「やってみたい！実現させたい！」と決めたモノ・コトに対して、自らの行動や段取りに責任を持たないと何も進まない状況を背負う

その評価は、オトナを動かせたことや、説明できたことによって、自らが自らのモノに出来る。とても高い自己効力感を獲得。

①かく

できあがりの
イメージを絵
や言葉にする

②つくる

試行錯誤を
繰り返し、
アイデアを
何とか具現化
させる

③見いだす

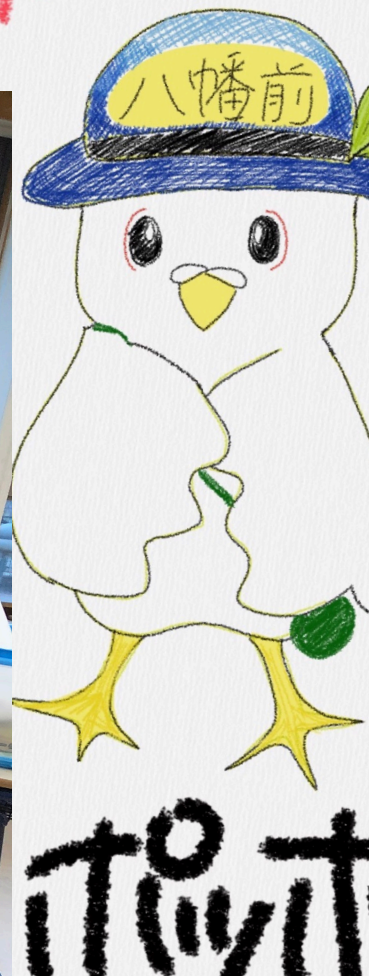
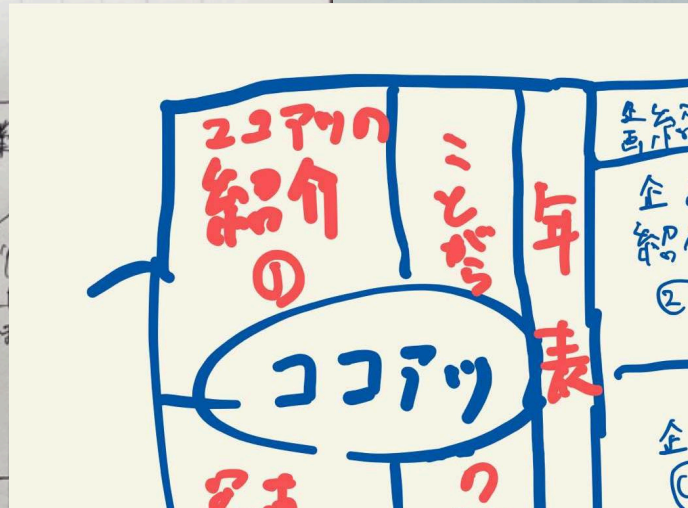
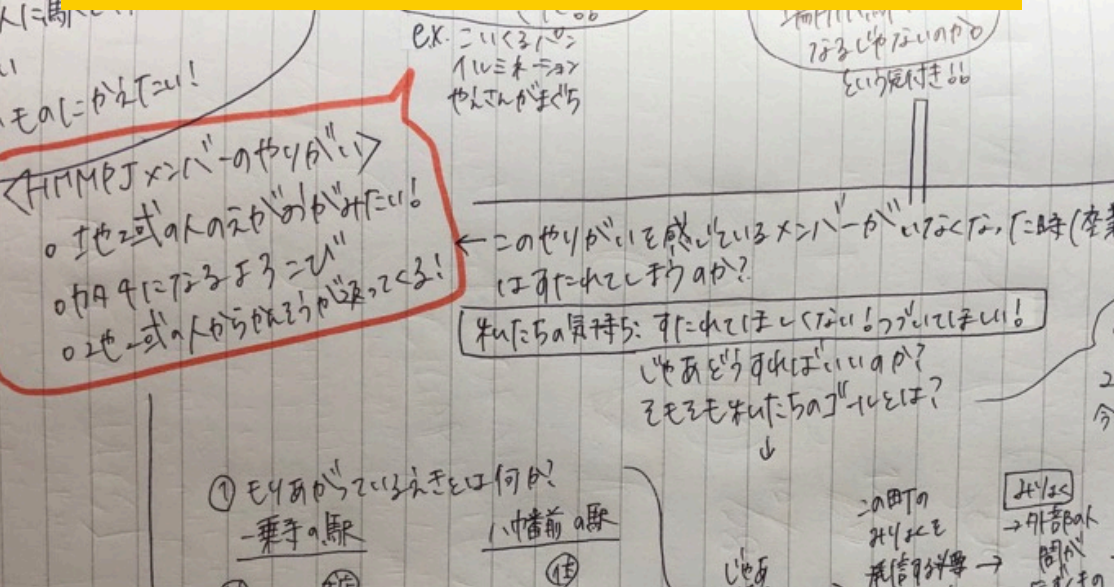
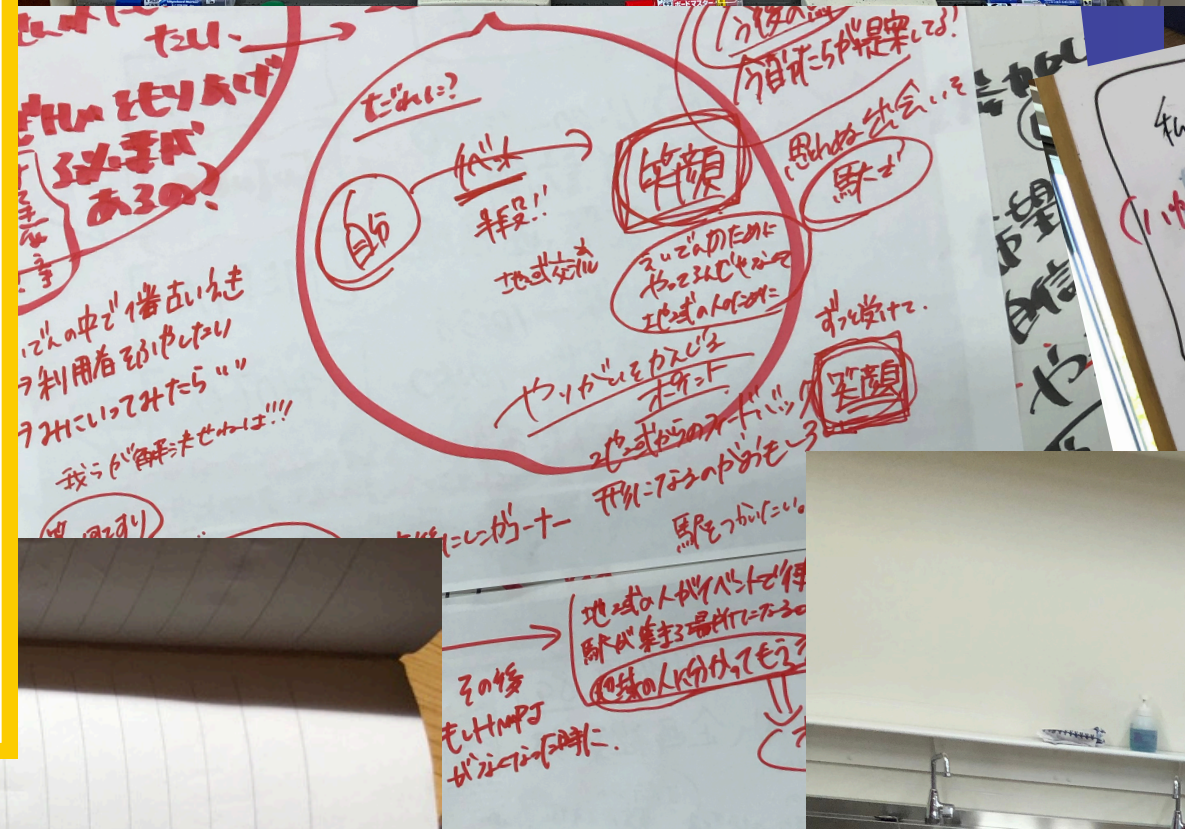
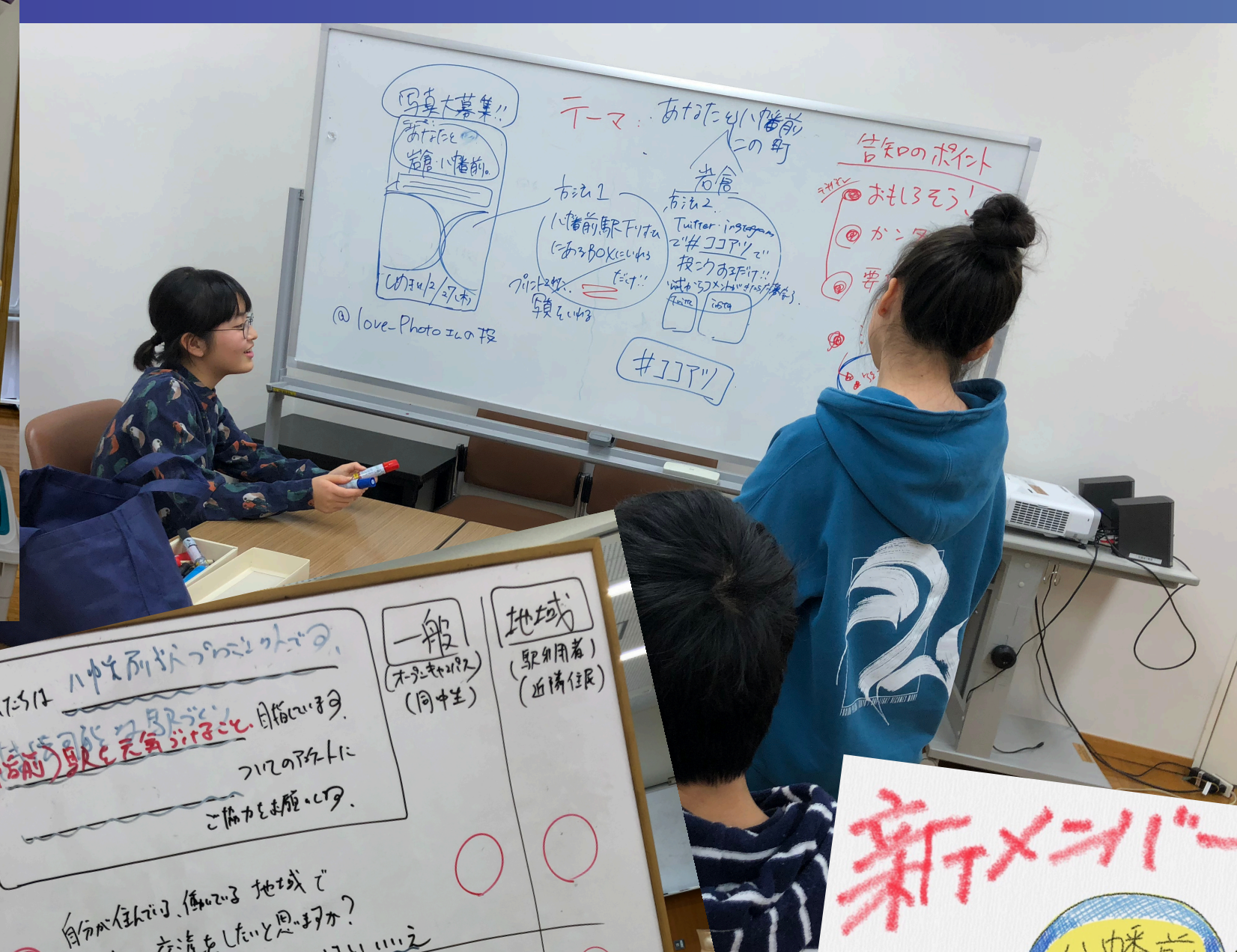
具現化させたモ
ノ・コトを、絵や
言葉でイメージし
たものと照らして
省察し、原理・原
則に気づく



出典

『「未来の学び」をデザインする ―空間・活動・共同体』（東京大学出版会）
および講演会内容（2019.5.28私学マネジメントセミナー）をもとにしています
公立はこだて未来大学 教授 美馬のゆり（専門：学習科学）

できあがりの
イメージを絵
や言葉にする

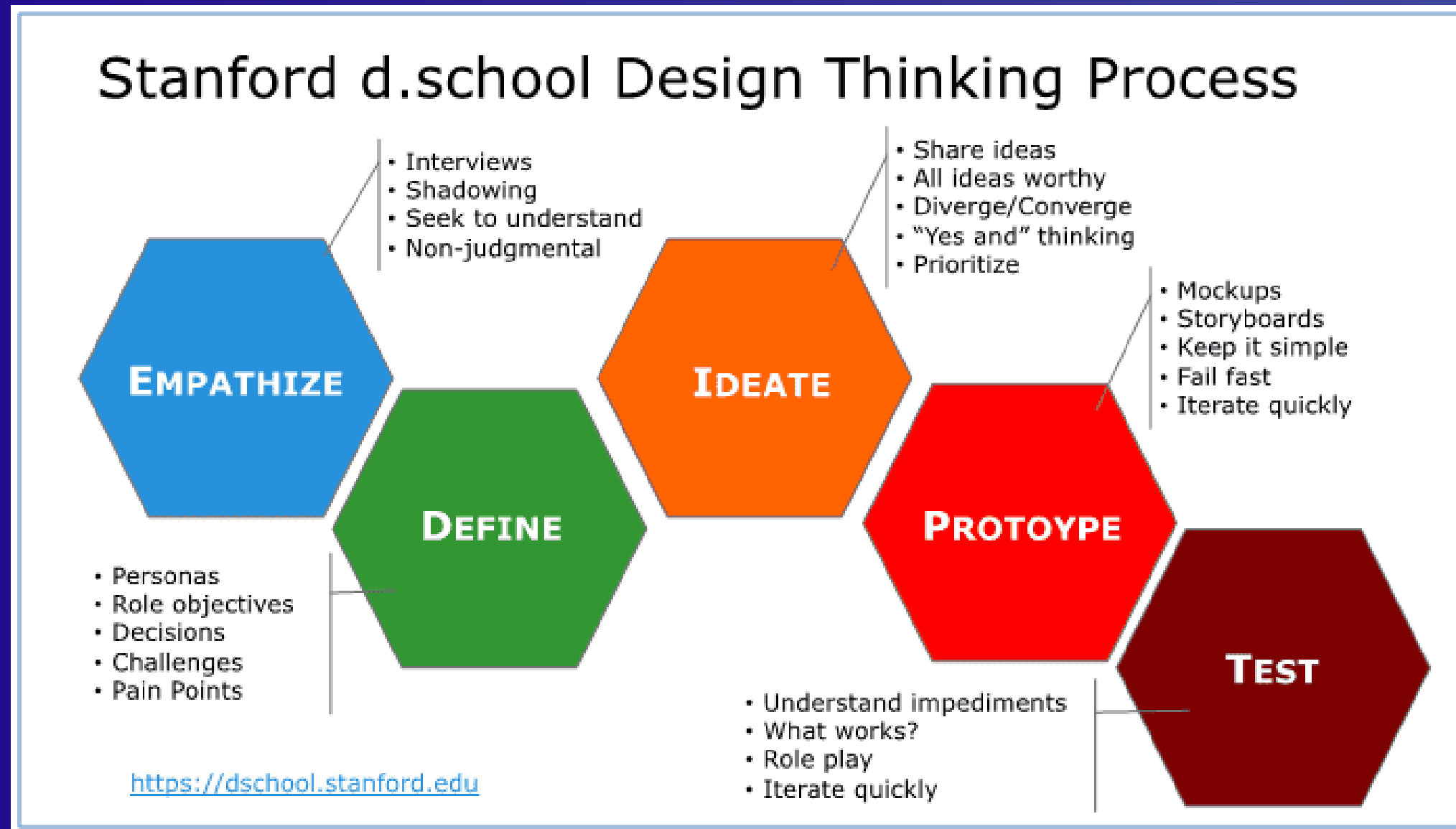


②つくる

試行錯誤を
繰り返し、
アイデアを
何とか具現化
させる



「つくる」段階においては、
実社会での仕事さながらのプロセスを体験することで、
「デザイン思考」を習得するトレーニングを意識的にを行っている。



「デザイン思考」で「つくる」経験を通して、自らの力を他者との協働（チームワーク）のなかでアウトプットする実践経験を積む。

将来、大学生や社会人として研究や仕事に取り組んでいくことにつながる有効な原体験になると考えられる。

「インサイト」シートに取り組もう

状況の事実



ペルソナの
ニーズ

〇〇のときに

▽▽▽になっている

〇〇のときに、□□□したい！▽▽▽したくない！

深掘り

なぜなら・・・

実は・・・

でも・・・

インサイト

つまり！本当は★★を実現したい！☆☆を解決したい！

③見いだす

具現化させたモノ・コトを、絵や言葉でイメージしたものと照らして省察し、原理・原則に気づく

イベント

そのときだけ
毎日のイメージない
一時的

ゴール

叡電八幡前駅を 地域交流をうむ 持続可能な駅にする

何かスポット
をつくる

常にそこにある

何かスポットをつくる
企画もいいよね

トイレ？

待合室？

イベントの時、自分たちで目の
当たりにした【課題】

一番すぐ取り掛かりたいことは
【スロープの設置】！

こういったところで成功し、こういったところが至らなかったのかを省察する機会を持ち、次へサイクルをまわすことが重要。良し悪しの振り返りでなく、原理・原則に気づくことがポイントになる。

「新しい活動の居所」が、継続12年に

未来予測やそれにむけて国際的に提唱されている
“これからの学びのあり方”にフィット。

そこで新しい経験・居場所を得た子どもたちが身に纏う
「前向きさ」「自信」「挑戦を楽しむマインド」。

課外活動かつ、産学協同のPBL、
そしてMM教育のエッセンス。
新しいかたちの学びで経験できる魅力が、
活動を希望する生徒を、連綿と引き寄せ続けている。



新しい学びの感触と果実 (四方良し)

04 生徒が得ている学びの感触と果実

学校の外とつながるプロジェクト

すでにある課題の解決や、
まだない新しいことへの挑戦

誰かに任せるのではなく
自ら提案・準備・実現させる

実社会の仕事さながらの
プロセスに対する充実感

新聞やテレビで報道され、
大きく社会に開かれた評価

自分たちが子ども扱いを
されなかった

自分たちが考えたことも
社会に通用する

自分も社会の一員として
アクションができる

実際にカタチになるのは、学校ではなく社会。
学校内で完結する活動とは別次元の達成感

04

生徒が得ている学びの感触と果実

知的好奇心・探求心

自信・自己肯定感

Lifelong Learning
学び続けることができるマインドセット

アントレプレナーシップ

公共心・シチズンシップ

『八幡前駅プロジェクトに参加する前は、自分もしくはみんなと、駅を変えたり、社会を変えたりできると思っていなかった。でも経験してきた今、意識が変わった。やりたいことは言ってみる。やってみる。挑戦する。そんな自分になれた。』（2018卒YYさん）

『自分が思いついて考えたことが、大人に意見してもらえたり、皆に認められて形になったことが嬉しかった。いろんな意見・知識が知れたことが楽しかった。プロジェクトに参加する前は、ちょっとめんどくさいから辞めようとかが多かった。「もっと知りたい！」「自分からやろう！」と思うことが増えた。大人に自信をもって言える意見を持つことは大切だし、社会の中に一足早く出るような経験でたくさん刺激ももらえるので必要だと思う。』（2018卒MYさん）

学校・企業・地域が得ている感触と果実



学校が地域社会に
開かれている・貢献



イメージアップ
まちづくり
地域・社会への貢献
ファンの獲得
タダの労働力
若年層マーケ



地域おこしの
取り組みが
中学生から提供される
タダで手に入る
活力とアイディア
将来の移住者獲得

「売り手よし、買い手よし、世間よし」 かつ、「未来よし」

運営の工夫、そして課題

▶ 運営の工夫



生徒の興味関心・モチベーションをいかにキープ&アップし続けられるか

ミーティング

対面とオンライン併用

チェックインを必ず行う

ゲストとの出会いを (叡電さん／大学教授／卒業生など)

通信

「通信」を発行

teamsを活用

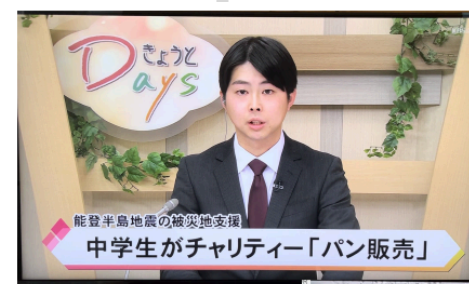


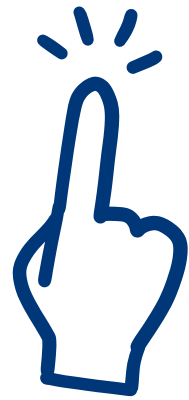
メディア掲載

プレスリリース

新聞

TV





長年の継続、学校内外での認知UP。
「やってみたい！」生徒は毎年多く、
積極的な気持ちで参加するメンバーが増える一方、、、課題も顕在化



生徒自身の“活動時間の量的な制約”の解消

授業・自宅学習・生徒会・クラブ・友達・習い事と多忙な中学生
活動に対して、学校としての優先順位を上げて「枠」を検討できるか



メンバー全員の主体性をどこまで引き出せるか

人数が増えると、一度に集まる機会がなく、個別対応になり、
生徒主体のファシリテーションやリーダーシップが行いにくくなる



関わるオトナ側の労力の最適化問題

学校と企業、そして地域と、それぞれの世話人となるオトナがいつ
まで継続できるかの問題。またその円滑な継承や分担などの検討

『学び3.0』では、こんな定義がされている。

学び1.0：正解を学び、知識を増やすインプット中心の学び

学び2.0：自分の興味をもとにデザインする主体的な学び

学び3.0：他者と学び合い、社会を共につくる共創的な学び

--

いまはVUCAの時代、不確実で曖昧で複雑で、予測がつかない。
また、生成AIの登場で、「答え」はすぐに出てくるようになった。

そんな時代の中、問われているのは、
何を問うかというセンスそのものだ。

好奇心。問いを立てる力。そして、学び続ける力。
この時代に必要なのは「知識を覚える力」ではなく、
「自分にとっての問いを見つける力」なのだろう。

--

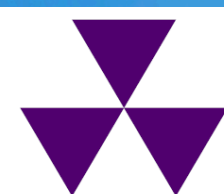
そして今、あらためて思うのは、社会を根っこから捉え直そうとする
とき、教育と経済は、断絶された別の領域ではなく、「居場所」
という媒介を通じて、なめらかに連なっていくということだ。

「学び」は、どこか遠くにあるものじゃない。
地域にあり、日常にあり、人との関係のなかにある。』



本日はありがとうございました。

京都にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください



同志社中学校



a-kojyo@js.doshisha.ac.jp